

概要

- 鹿児島県においては、みどりの食料システム法を受け、**化学合成農薬、化学合成肥料の使用量低減や未利用資源の有効活用**等が課題
- このため、県内普及組織や関係機関団体と連携し、化学合成農薬および化学合成肥料の使用量低減に向けた各種の**環境負荷低減技術の実証と普及**に取り組む。
- その結果、**IPM技術や糖含有珪藻土を活用した土壌還元消毒**等による化学合成農薬の使用量低減、**地力窒素診断、堆肥入り肥料**の利用等による化学合成農薬使用量低減の**取り組みが拡大**している。

具体的な成果

1. 化学合成農薬使用量の低減の取り組み

■ 露地オクラにおけるIPMの普及
令和6年度 50 ha

■ 糖含有珪藻土による土壌還元消毒の普及
令和6年度 14.1 ha



写真1. 露地オクラでの取り組み
（天敵温存植物の植生管理）

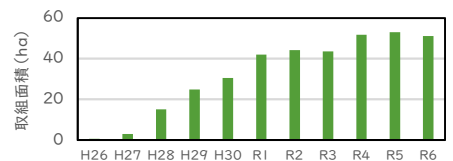


図1. 露地オクラにおけるIPMの導入面積

表1 R6年度における糖含有珪藻土土壌還元消毒の推定普及面積

地区名	面積(ha)	対象作物
鹿児島	1.5	軟弱野菜、花き 等
南薩	3.3	ピーマン、スナップエンドウ、さつまいも苗床 等
北薩	1.8	ミニトマト、イチゴ、さつまいも苗床 等
大隅	7.5	ピーマン、キュウリ、ナス、さつまいも苗床 等
合計	14.1	

注) 面積は、糖含有珪藻土の出荷量から、使用量を1t/10aとして推計

2. 化学合成肥料使用量の低減の取り組み

■ 地力窒素診断による適正な施肥の推進
7品目、151地点（令和5～6年度）での地力窒素診断と施肥指導

■ 堆肥入り肥料の利用拡大（令和6年度）
※JA系統の出荷数量における堆肥入り肥料の割合
茶 46%、かんしょ 33%、果樹 29%、野菜 21%、
花き 16%、水稻 11%、

■ 効率的な施肥につながる高速二段局所施肥機の導入
令和6年度末現在 10台

表2 地力窒素診断実施点数（R5～6年度）

品目	実施点数	平均地力窒素 (mg/100g)
青果用さつまいも	21	4.3
だいこん	11	3.7
キャベツ	66	3.5
にんじん	24	3.1
ごぼう	5	2.3
ばれいしょ	9	3.0
根深ねぎ	15	3.4
合計	151	4.8



写真2. 地力窒素診断を
用いた施肥指導



写真3. 茶での現地検討会

3. 未利用資源の活用推進

■ 下水汚泥肥料の利用拡大
茶園における導入面積 R6年 9.2ha

普及指導員の活動

令和5年度
～6年年度

- 普及情報課においては、みどりの食料戦略システムを推進するため、関係普及組織と連携して、**重点プロジェクト計画**を策定。
- 関係機関団体と連携した**化学合成農薬と化学合成肥料の使用量低減**につながる**実証ほの設置と運営**、それらを活用した各種の**検討会の開催**や生産者等に対する**技術支援**
- 普及だより等による**情報発信**。

普及指導員だからできたこと

- ・ 日頃から連携している関係機関団体や農業者から、協力を得られる環境づくりを行っていたことから、県内各地域の実情に合わせた**環境負荷低減技術の実証活動**や情報発信を行うことができた。
- ・ 実証活動に当たり、試験研究機関の支援体制を調整することで、**現地への効率的な技術導入支援**が行えた。